



## 平成30年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座 「教員のための英語リフレッシュ講座」



日程	平成30年8月7日（火）～10日（金）
会場	大阪大学大学院言語文化研究科 （豊中キャンパス）
講習料	8,500円
定員	70名（先着順・定員に達した時点で大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HPに提示します）
受付開始	7月2日（月）
主催	大阪大学大学院言語文化研究科

詳細は大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HP (<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>) にて公開しています。（裏面も御覧ください）

平成30年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座  
「教員のための英語リフレッシュ講座」

平成14年度発足の本講座は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学あるいは民間教育機関等の校種を問わず、英語教育の実践のために役立つ知識を提供することを主眼としています。グローバル化への対応が迫られる今日において、本講座の果たす役割はますます大きくなるものと思われます。

本講座の講師は、英語教育学・英語学・英語文学・社会言語学・認知言語学・コーパス言語学等を専門とする大学教授が中心で、それぞれの分野の知見に基づき、英語教育への応用について考察します。また、大阪大学の教員だけでなく、他の教育機関の先生方にも講義をお願いしております。英語教育に関する講義だけでなく、英語力自体をあらためてブラッシュアップしていただくための少人数クラスも設けています。さらに本年度は、参加者の方々の自由な意見交換を促進するワークショップも企画しております。

本年度の講座も、これからの英語教育について一緒に学ぶ有意義な機会となることを願っています。

## 講義および講師

(所属大学名のない講師は、大阪大学所属)

8月7日 (火)

10:00~10:20	オリエンテーション	教員のための英語リフレッシュ講座企画WG
10:30~12:00	EIL (国際英語) 教育の意義と方法論	日野信行教授
* 13:00~14:30	ICTを活用した外国語学習—実践事例の紹介とワークショップ	岩居弘樹教授
* 13:00~14:30	理論とエビデンスに基づいたリスニング指導法	(立命館大学) 上田真理砂教授
14:40~16:10	主体的な学びを育む協同学習の実施法	(和歌山大学) 江利川春雄教授

8月8日 (水)

* 10:30~12:00	異文化体験としての翻訳—限りなくスローな英語学習	木原善彦准教授
* 10:30~12:00	英語らしい発音の科学—ダイナミックメカニズムと発音・聴解の秘儀	成田一大阪大学名誉教授
13:00~14:30	英語史を通して英語を学び直す	三浦あゆみ准教授
14:40~16:10	認知的視点から見た英文法	早瀬尚子准教授

8月9日 (木)

10:30~12:00	コーパスに基づくL2ライティング指導: よい作文とはなにか	(神戸大学) 石川慎一郎教授
13:00~14:30	発信力を高める英語プレゼンテーション指導法—スピーチ~質疑応答まで	島村東世子講師
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習① (基礎)	デーヴィッド・マレー講師
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習②	アンドリュー・村上スミス准教授
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習③	グエン・ヘルヴァソン特任准教授
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習④	タマラ・コーヘン特任准教授

8月10日 (金)

10:30~12:00	ことばを使ってできること	榎本剛士准教授
13:00~14:30	生徒の英語力を適切に評価するために知っておきたいこと	今尾康裕准教授
* 14:50~16:40	ワークショップ① (小学校の英語教科化と中高の「英語で授業」)	成田一大阪大学名誉教授 (京都ノートルダム学院小学校) 田縁真弓先生
* 14:50~16:40	ワークショップ② (ダイバーシティ教育: 現状と課題)	ジェリー・ヨコタ教授 (姫路獨協大学) 山岡華菜子講師
* 14:50~16:40	ワークショップ③ (アクティブラーニング型英語授業の理念と実践)	岡田悠佑准教授 田中美津子講師
16:50~17:00	講座修了証授与式	大阪大学大学院言語文化研究科長 木村茂雄教授

■ 講義概要は大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HP (<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>)にて公開しています。

■ 同時帯に開講の\*印付きの講義、英語コミュニケーション演習及びワークショップは選択です。申し込み時にそれぞれの時間帯で選択する講義をお知らせ下さい。

■ 全講義 (時間帯) の60%以上 (8講義以上) に出席された受講生の方には講座修了証を授与いたします。

## 参加申込方法 (受付開始 7月2日 (月))

①E-mailにて、大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HP (<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>) 記載の案内に従ってお申し込みください。

②お申込み受付後、E-mailにて講習料の振込先等を通知いたします。通知に記載された方法により、指定振込銀行口座へ受講者氏名でお振り込み (手数料はご本人負担) 願います。お申し込み後、1週間以内に通知が届かないようでしたら、お問い合わせください。

お振り込みいただきました講習料は、欠席されたり災害等により一部不開講になった場合でも返金できませんので、ご了承ください。

問い合わせ 大阪大学大学院言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係

(E-mail: [genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp) TEL: 06-6850-5855 FAX: 06-6850-5865)

# 講師プロフィール & 講義内容

(所属大学名のない講師は、大阪大学所属)

同時時間帯に開講の\*印付きの講義、英語コミュニケーション演習及びワークショップは選択です。

8月7日 (火)

10:30~12:00

## EIL (国際英語) 教育の意義と方法論

日野信行

言語文化教育論講座教授 専門: 「国際英語」教育

**プロフィール**: 最近の単著として、EIL Education for the Expanding Circle (London: Routledge, 2018年)。国際学術誌World Englishes (Wiley)、Intercultural Communication and Language Education シリーズ (Springer) 等の編集諮問委員。本年度の招待講演が決定している国際学会として、IAWE大会、Asia TEFL大会、Japanese Language Education and Japanese Studies シンポジウム、PAAL大会など。

**講義内容**: 英語母語話者や英米文化の枠組を越える「国際英語」の考え方は、特に欧州の学界で盛んに研究されるELF (English as a Lingua Franca) の概念によって、近年大きな注目を集めるに至っている。また、ELFに先立ち、1970年代にはすでに、米国ではLarry E. SmithのEIL (English as an International Language)、日本では國弘正雄の「脱英米の英語」や鈴木孝夫のEnglicなどの先駆的な提言がなされている。本講義では、最新の研究成果も取り入れながら、国際英語の学びの意義とその方法論について論じる。

\* 13:00~14:30

## ICTを活用した外国語学習—実践事例の紹介とワークショップ

岩居弘樹

サイバーメディアセンター教授 専門: ICTを活用した外国語学習・教育工学

**プロフィール**: 2010年ごろからiPhone/iPadを活用したドイツ語学習を実践。音声認識アプリによる発音練習とビデオ撮影を中心とした能動的な外国語学習を展開している。現在はICTを活用した複言語学習の実践にも挑戦中。Apple Distinguished Educator 2013。

**講義内容**: 音声認識アプリやビデオ撮影を中心としたドイツ語授業や多言語演習の実践をご紹介します。iPadを使った実習を通して、外国語学習ツールとしてのモバイルデバイスの可能性を体験していただきたいと思います。iPadはこちらで用意しますが、お手持ちのスマートフォン、タブレット端末があればご持参ください。昨年度の資料はこちらです: <http://bit.ly/iwaierc2017>

\* 13:00~14:30

## 理論とエビデンスに基づいたリスニング指導法

上田真理砂

立命館大学教授 専門: リスニング

**プロフィール**: Ph.D. (言語文化学) 大阪大学、M.A. (応用言語学) University of Reading/UK、Diploma (TEFL) University of East Anglia/UK。

**講義内容**: リスニングにおいて「聞いただけではわからないが、見たらわかる」という学習者は非常に多い。また、多くの教員も教職課程でリスニング指導の教育や訓練を受けてきていない。そこで、本講義では、筆者が博士論文執筆にあたって得られた研究結果より、理論とエビデンスに基づいたリスニング指導法を、具体例を挙げてわかりやすく紹介する。理論的裏付けや、指導の為の具体的なノウハウを知りたい方や、リスニング指導に自信がない方にお勧め。

14:40~16:10

## 主体的な学びを育む協同学習の実施法

江利川春雄

和歌山大学教授 専門: 英語教育学

**プロフィール**: 英語教育の歴史・政策批判・授業改善を三位一体で追求しています。著書『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』大修館書店、DVD「アクティブ・ラーニングによる協同的な英語授業づくり」ジャパンライム社など。

**講義内容**: 少人数集団で主体的・対話的で深い学びをもたらす協同学習の理念・実施方法・留意点について、実践事例を交えながら、ワークショップ形式で学びます。ポイントは、①全員の学びを保障する相互信頼関係の構築、②協同する必然性のあるジャンプ課題のある授業デザイン、③主体性と意欲を刺激する評価法です。格差を乗り越え、民主主義社会を創造する、主体的で自律的な学習者を育てましょう。

8月8日 (水)

\* 10:30~12:00

### 異文化体験としての翻訳—限りなくスローな英語学習

木原善彦

現代超域文化論講座准教授 専門：現代英米文学、文化

**プロフィール**：博士（文学）。著書に『UFOとポストモダン』（平凡社）、『実験する小説たち』（彩流社）など。訳書にリチャード・パワーズ『幸福の遺伝子』（新潮社）、ベン・ラーナー『10:04』（白水社）など。

**講義内容**：「翻訳」というものを抽象的なレベルで考えていると、「直訳か意識か」のような二分法がまず頭に思い浮かびますが、実際の翻訳作業はもっと微妙な問題に満ちています。この講義では、現代作家の小説をいくつか翻訳した経験をもとに、通常よりはるかにスローな読書（＝翻訳）の場面で感じた「異文化的なもの」についてお話しします。

\* 10:30~12:00

### 英語らしい発音の科学—ダイナミックメカニズムと発音・聴解の秘儀

成田一

大阪大学名誉教授 専門：英日対照構造論・機械翻訳・言語教育/習得論

**プロフィール**：著書『日本人に相応しい英語教育』（松柏社）他、編著『英語リフレッシュ講座』（大阪大学出版会）他、新聞雑誌記事多数。英語教育総合学会会長。

**講義内容**：発声の生理のMRI画像、音読時の脳活動画像なども示しつつ、英語特有の「ダイナミックな発音変容とプロソディ（音調）の仕組み」の理解を踏まえて、発音・聴解・音読のエッセンスを解説・訓練する。「発音教育においては何を教えなければならないか」を理論的かつ実践的に学んでいただきたい。

13:00~14:30

### 英語史を通して英語を学び直す

三浦あゆみ

言語文化比較交流論講座准教授 専門：英語史

**プロフィール**：博士（言語学）。著書にMiddle English verbs of emotion and impersonal constructions (Oxford University Press, 2015)。英語史の総合情報サイト「A Gateway to Studying HEL」「HEL on the Web」運営。

**講義内容**：英語史は大学生になるまで本格的には学ぶ機会がない分野だが、英語学習者がつまづくような項目に対して論理的な説明を与えるため、学習者だけでなく英語教員にとっても学ぶ意義が大きい。本講義では、英語の発音・スペリング・語彙・文法における、主に学習者が疑問を抱きがちなトピックを取り上げ、英語史を参照することで英語学習に新たな知見がもたらされる可能性を提示する。受講に際して英語史の基礎知識は前提としない。

14:40~16:10

### 認知的視点から見た英文法

早瀬尚子

言語認知科学講座准教授 専門：認知言語学・構文文法

**プロフィール**：英語構文と意味、主観性の関わりを研究。著書に『英語構文のカテゴリー形成』（単著：勁草書房）、『認知文法の新展開』（共著：研究社）『構文の意味と拡がり』（共編著：くろしお出版）等。

**講義内容**：「言語形式は我々の捉え方を反映する」という認知言語学の考え方を基に、前置詞や動詞の多義、書き換えに伴って生じる意味の違いや情報構造、前後の文脈の違いに基づく構文形式の使い分け、一般になじみの深い構文形式の中でも特異と目される具体表現とその特有の意味について、また日英発想法の違いと英作文において留意すべき認知パターン等を扱います。英語教員のみなさんに少しでも役立つ言語学的知識が提供できれば幸いです。

8月9日 (木)

10:30~12:00

### コーパスに基づくL2ライティング指導：よい作文とはなにか

石川慎一郎

神戸大学教授 専門：応用言語学・コーパス言語学

**プロフィール**：主著に『英語コーパスと言語教育』、『言語研究のための統計入門』、『ベーシックコーパス言語学』、『ベーシック応用言語学』他。

**講義内容**：大学入試における4技能テストの導入が迫り、ライティング指導への関心が高まっています。しかし、現場では、どのような作文をモデルとすべきなのか、戸惑いの声も聞かれます。本講義では、「よい作文」の定義を多面的に議論した上で、最新のコーパス言語学の知見をふまえたライティング指導のあり方について具体的にお話しします。

13:00~14:30

### 発信力を高める英語プレゼンテーション指導法—スピーチ~質疑応答まで 島村東世子

大阪大学大学院工学研究科招へい教員 専門：英語教育学(ESP)

**プロフィール**：博士（言語文化学）。ESP教育の指導法を研究。企業、研究機関にて指導・講演多数。著書『研究発表ですぐに使える理系の英語プレゼンテーション』（日刊工業新聞社）他。

**講義内容**：本講義では、実証研究から得られた「英語プレゼンテーションの評価基準と指導の指針」を基盤とした、効果的な英語プレゼンテーション指導法についてお話しします。英語発信力を高めるための指導法として、準備(原稿・スライド作成)・スピーチ・質疑応答における、それぞれの指導のポイントと、授業に応用できる具体的な演習方法をご紹介します。

\* 14:50~17:10

### 英語コミュニケーション演習①(基礎): Encouraging creativity and originality to enhance fluency

Dave Murray

M.A., Applied Linguistics

**プロフィール**：Dave qualified and worked as a petrochemical engineer, before completing his M.A. in Applied Linguistics. He has been teaching and living in Japan for over 25 years.

**講義内容**：The theme for this session is that of encouraging creativity and originality and using these characteristics as a means to enhancing basic speaking proficiency skills in both traditional and technology-based language lessons.

\* 14:50~17:10

### 英語コミュニケーション演習②: Ideas for Vocabulary Building

Andrew Murakami-Smith

Associate Professor, Ph.D., East Asian Studies

**プロフィール**：Andrew teaches English, Translation Studies, and Modern Japanese Literature at Osaka University. He is interested in regional dialects and cultures of Japan, especially the dialect, culture, and image of Osaka, and has translated into English some 20 works of fiction, poetry, and essays relating to Osaka and the Kansai region. He has also worked as a translator in a lawyer's office and in a patent lawyer's office.

**講義内容**：Vocabulary is one of the most basic areas of foreign-language proficiency, but it is also something students can learn on their own using dictionaries and the Internet. On the other hand, only motivated students will do this, and even motivated students may not know which vocabulary they should learn, or where to start. Are there ways teachers can help students develop their vocabulary? Please be ready to share your ideas. We will also try many different vocabulary-related exercises I have used at the university level.

\* 14:50~17:10

### 英語コミュニケーション演習③: Utilizing visual art in the EFL classroom

**Gwyn Helverson**

Specially Appointed Associate Professor, M.A., Advanced Japanese Studies

**プロフィール** : Gwyn is an American who has been living and teaching in Japan for more than 20 years. Her publications include studies of modern Japanese artists such as Yamaguchi Akira and Aida Makoto, and concerning the intersection of EFL- and gender-related issues. Her research on the artist Yanagi Miwa was awarded “Best Poster Presentation” at IGALA6 (The International Gender and Language Association Biennial Conference) and “Best of JALT.” Her latest publication analyzed the influences of the “different-but-equal” gender discourse on the EFL university classroom in Japan.

**講義内容** : In this session, attendees will participate in a variety of sample lessons utilizing visual art as the inspiration for communicative EFL classes. We will look at some thought-provoking artworks, and brainstorm ways in which these artworks can inspire and thereby increase student motivation. It is not necessary to be familiar with the artists or works before attending this session. We will discuss the imagery just as your students would.

Illustrations in EFL textbooks already provide support in controlled practice activities for grammar or functional language activities. Visual art, however, often has more impact upon students because of its drama and symbolism. Attempting to understand art also develops our visual literacy, a skill vital for navigation of today’s image-saturated environment.

\* 14:50~17:10

### 英語コミュニケーション演習④: Language and Gender: A Workshop

**Tamarah Cohen**

Specially Appointed Associate Professor,

M.A. in TESOL + Graduate Certificate in Teaching Post-Secondary Reading

**プロフィール** : Tamarah’s background is in the arts with a BFA in Film Studies from New York University. She has several years’ professional experience as a graphic artist (Paris, France), studio photographer (New York City), textile designer (New York City) and filmmaker. At San Francisco State University, she earned an M.A. and served as an ESL lecturer. At Osaka University, the challenge she sees before her is to refashion mandatory, skills-based English language classes for non-English majors into intellectually engaging, sought-after and positively memorable learning experiences. Her aim is to optimize students’ enjoyment in communicating across a wide range of issues by sensitizing them to interpersonal and cross-cultural empathy, so that they can successfully negotiate meaning with people unlike themselves.

**講義内容** : English, like most languages, partakes in the male-is-norm ideology. It therefore reflects and helps constitute sexual inequality. In response to this enduring problem, a growing number of language instructors have begun developing compensatory classroom strategies. This workshop will offer an overview, starting with isolated words and sentences, then moving toward more extended samples of language in use (i.e., from decontextualized items of what is commonly known as “sexist language,” to the role of discourse in the reproduction of sexism). It will conclude with practical teaching ideas and resource recommendations.

Feel free to bring the EFL textbooks that you are currently using. If time permits, we will engage in little bit of casual content analysis of our own.

8月10日 (金)

10:30~12:00

### ことばを使ってできること

榎本剛士

言語コミュニケーション論講座准教授 専門：語用論・言語人類学

**プロフィール**：博士（異文化コミュニケーション学）。語用論、記号論、言語人類学に基づく「コミュニケーション論」に依拠した近現代日本の英語教育研究を通じて、ことばを使う存在としての「人間」の姿に迫りたいと考えています。

**講義内容**：ことばには色々な側面がありますが、この講義では特に、「我々はことばを使って何をしているのだろうか？」という問いに寄り添います。理論的な説明と例を交えながら、「言われていること」に必ずしも還元できない「為されていること」（我々がことばの使用を通じて踊っている社会的なダンス）に光を当てていきます。この講義で得た視点をぜひ、日々身の周りで起きていることへの理解や授業実践にそれぞれのやり方で役立ててください。

13:00~14:30

### 生徒の英語力を適切に評価するために知っておきたいこと

今尾康裕

マルチリンガル教育センター准教授 専門：応用言語学（言語テスト）

**プロフィール**：学習者コーパスからの知見をライティング評価に生かす方法を研究。Mac用のコーパス分析ツール、文字起こしツール等を開発。

**講義内容**：学習者の英語能力を評価するためには、評価する目的に合わせて、どの要素をどのように評価するのかを決める必要がある。そのために必要な言語能力評価の基本的な概念やテスト作成の際に考慮すべき点などを中心に概説し、大学入試へ英語民間テストの導入についても、言語テストの学術的な見地から検証する。

\* 「ワークショップ」は、受講者の方たちの中で、英語教育に関する情報共有・意見交換・交流をしていただける場として企画しております。

\* 14:50~16:40

### ワークショップ①：小学校の英語教科化と中高の「英語で授業」

進行:

大阪大学名誉教授 成田一

京都ノートルダム学院小学校教諭 田縁真弓

**内容**：文科省は「コミュニケーション」に力点を移し文法や読解を軽視してきた。高校で始まった「英語で行なう授業」は中学でも実施予定だが、教員と生徒の英語力はとても答えるものではない。小学校でも英語が教科化されるが、『We Can!』の8つの特徴の中から、「細かなステップを踏んだ、読む・書く」「ゆっくり文字を読む・書く」「読む・書く必然性のある」活動の設定の3つに注目し、「読み書き指導」の方向性を具体的に考えたい。

\* 14:50~16:40

### ワークショップ②：ダイバーシティ教育：現状と課題

進行:

現代超域文化論講座教授 ジェリー・ヨコタ

姫路獨協大学講師 山岡華菜子

**内容**：文化的背景が異なる人と理解し合うためにどんな心得が必要になってくるか。最近、教育現場で起こっている事例と参加者の経験を共有し、包摂的な多文化共生社会の実現について一緒に考えましょう。

\* 14:50~16:40

### ワークショップ③：アクティブラーニング型英語授業の理念と実践

進行:

マルチリンガル教育センター准教授 岡田悠佑

マルチリンガル教育センター講師 田中美津子

**内容**：このワークショップではプロジェクト発信型英語授業を題材に、アクティブラーニング型授業の理念と方法を学び議論します。シラバスや試験としてのポスター発表のやり方などを紹介した上で、学生・生徒のどのような「英語力」を伸ばすことができるのか、それはどのように定義することができ、そしてどうやって測ることができるのか、といったことを中心に、アクティブラーニング型授業の意義や方法を参加者の皆さんと議論します。